

学生アニメーションの祭典 ICAF×文化庁メディア芸術祭

ICAF とらのあな

学生アニメーション持込み上映・講評会
来たれ！参加者大募集！

ICAF(インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル)恒例企画！
2020は文化庁メディア芸術祭コラボ企画としてオンライン開催です！！

講評者

ICAF名誉実行委員長 文化庁メディア芸術祭運営委員
アニメーション作家

古川タク



©古川タク

第23回 文化庁メディア芸術祭 審査委員会推薦作品『深海の虹』
アニメーション作家

鋤柄真希子 松村康平



©SUKIMAKI ANIMATION

2020年9月26日(土) 15:00~17:30 / オンライン配信予定

●古川タク / 1941年三重県生まれ。TCJ、久里実験漫画工房を経て'70年代よりイラストレーター、アニメーション作家として活動。1976年「驚き盤」アヌシー国際映画祭審査委員特別賞、1986年「スピード」毎日映画コンクール大藤信郎賞、1992年「TarZAN」1994年「以心伝心」広島国際アニメーション映画祭部門賞、1999年「上京物語」メディア芸術祭優秀賞。2002年オタワ回顧特集上映。「桜井順+古川タクのヒトコト劇場」2018年イメージフォーラムフェスティバル寺山修司賞。



●鋤柄真希子 / 1982年、大阪生まれ。京都工芸繊維大学後期博士課程単位取得退学。大学在学中よりマルチプレーン技法による手描きアニメーション制作を開始。2008年、処女作『蜉蝣』でNHKデジタルスタジオ今敏セレクション。『雪をみたヤマネ』(2010)、『やまなし』(2011)が国内外の映画祭で上映。2013年、『カラスの涙』で文化庁メディア芸術祭新人賞受賞。また、2015年より人形劇団JiJOとのコラボレーション作品『バナナ裁判』は全国各地で上演されている。現在、大阪在住。SUKIMAKI ANIMATION主宰。



●松村康平 / 1980年、大阪生まれ。京都工芸繊維大学修士課程修了。2000年代初期より映画、写真作品の制作を開始。また自作以外にも様々なアートシーンに於ける映像制作を手がける。2005年キャノン写真新世紀優秀賞、Graz Art Bix Media Competition優秀賞。近年では2010年ミラノサローネCanonブースの映像制作を担当、多数の作家が参加したJohn Cage 100th Anniversary Countdown Event 2007-2012の記録映像を完遂。2014年、『Scene Missing』がカンヌAVIFFにて上映された。



■募集内容◇アニメーション作品 (10分以内)

■参加資格◇中・高校生 / 大学・大学院生 / 専門・各種学校生
※当日、オンライン講評会に参加可能な方に限ります。

■参加申込み(事前登録制・先着順)◇9月23日(水)までに下記
専用フォームから必要事項を入力の上ご応募ください。

※参加希望者多数の場合や、著作権等の許諾を得られていない場合、また公
の上映にそぐわない内容の場合など、上映が出来ないこともありますので
ご了承ください。

※作品は別途事前に専用サーバーにアップロードしていただく予定です。

<https://forms.gle/LEhf7TtdstYwtDZx5>

問い合わせ先：toranoana@icaf.info

ICAF 公式サイト：http://icaf.info/

